

学校道徳教育随想

A Short Essay on Moral Education

ディオ・ロドルフ
DIOT Rodolphe

【要旨】 本稿は、筆者が2014年11月に見学した小学校高学年の「道徳の時間」の現地報告を基に、近年人口に膾炙している「道徳教育」の可否を考えてみた試論です。

キーワード 道徳教育, 「手品師」, 嫉, 哲学

端書き

桜の花弁が春風に散る中、新しい学年がいよいよ始動しました。幼稚園児から大学生まで、新入生の多くは心躍る日々を送っていることでしょう。この時期特有の祝福ムードの余韻に私も浸かりたいところだが、実は、昨秋から気にかかることがあって、新学期をいつもの朗らかな心で迎えることができません。正にいま新たな学校生活のスタートを切る子どもたちの将来にも関わるその不安材料をここで明かし、読者諸賢の机上に呈したいと思います。

1. ある土曜日の授業参観

昨年11月8日の土曜日に、我が家の娘たちが通っている小学校で授業参観が企画されました。平日に開かれる場合、共働きのため、こうした催しを（罪悪感を抱えつつも）欠席せざるを得ない我々夫婦だが、比較的余裕のある週末には努めて顔を出します。今回も、2人で手分けして、第2校時の授業を私が、そして第3校時のそれを妻が見物することにしました。

5年生の長女の時間割では、当日の2時間目は「道徳」の活動となっていました。私はそれまで、子どもの学校公開の度に、国語を中心とした種々の教科の実践を見ていたけれども、道徳は未経験でした。折しも、その2週間ほど前に、義務教育における「道徳」を現行の「教科外の活動」から「特別の教科」に格上げすることを盛り込んだ中央教育審議会の答申¹がニュースになったばかりでした。それで、ちょうど良い機会だと思って、土曜の朝9時頃、ささやかな好奇心を胸に5年1組の部屋へと向かいました。授業の途中で、その教室を抜け出して、次女のいる3年生のクラスに移動するつもりでした。

長女の担任のI先生については、以前に一度面会したことなどから、子どもをよく観察し理解する、いわゆる「しっかりした」熟練の教諭という印象を持っていたが、その日、指導ぶりを初めて目の当たりにして、案の定、彼女の手腕の確かさおよび教えることへの自信と情熱を感じました。

さて、9時35分にチャイムが鳴り、「起立！」「礼！」の号令で授業が開始されました。高学年にもなると、児童たちはこのような参観に慣れているし、その朝、教室の奥の方に我が子を見に集まっていた保護者が私を含めて10人程度とまばらだったこともあってか、子どもたちはこちらのことをほとんど気にせず勉強に励んでいる様子でした。

2. 誠実な手品師

授業の冒頭で、I先生はまず、このクラスを対象に取られた「約束」に関するアンケートの結果を報告しました。それによれば、「約束を守る事が大切だと思いますか」の質問に、児童40人全員が「思う」と回答していたが、一方、「約束を守らなかった事がありますか」に対しては、「ある」が31人で、「ない」が9人という数字を得ていました。約束を果たさねばと思いつつ、それをついつい破ってしまうというこの調査が表している「矛盾行動」を戒めた上で、誠実な振る舞いの重要性を子どもたちに再認識させるために、I先生は「手品師」の話を始めました。

簡約すると、物語の粗筋はこうです。「売れない手品師が、毎日街角で芸を披露しているが足を止める者は少ない。ある日、通りかかった少年が手品を見て大喜びし、明日も見せて欲しいと頼む。手品師はきくと約束するが、その夜、彼のもとに大劇場への出演依頼の電話がかかってくる。手品師にとって、永年の夢を叶える好機が遂に巡ってきたわけだ。ところが彼は、男の子との約束を優先し、劇場のオファーを断る。そして次の日、売れない手品師は、芸を披露して少年を喜ばしていたという」。

この童話は、「誠実・明朗」という徳目の涵養に寄与する教材として、このクラスで用いられている副読本に収録されています²。

後日調べたところ、1976年に文部省（当時）が編集・出版した『小学校 道徳の指導資料とその利用 1』に登場して以来、この「手品師」が道徳授業の定番になっていることが分かりました。

この日の授業で、I先生は登場人物の台詞などを板書したり、副読本の挿絵を拡大したイラストを次々と黒板に貼ったりしながら語りを進め、時折話を中断して子どもたちの意見を求めました。終わりには、皆で約束を守ることの大切さを口頭で再確認した後、「道徳のつづり」と銘打った手作りファイルに挟まれている用紙に児童各自が感想を認めました。

「キンコンカンコン」。第二校時の終了時刻を告げるベル音が校舎中に響き渡った時、私はただただ啞然と立ち尽くしていました。

3. リアリティーの薄い短編

まさかこれが現在実施されている道徳教育だとは信じられなかったのです。もちろん、この国のことなので、「ですから皆さん、いい子にしましょうね」で結ぶようなお約束の授業展開になることは予想していましたが。

第一に、私は物語のあまりの非現実性に呆れました。主人公の手品師の考え方と行動はひどく常軌を逸しています。嘆かわしかな、この濁世には、一人の見知らぬ^{はな}湊垂れ小僧を数分間楽しませるために一生の大望をいとも簡単に諦める滅私の高士はそういません。生計がかかっているとすれば尚更珍しいでしょう。

しかも、この話では、少年が次の日に同じ場所に姿を現す保証もありません。少なくとも、彼は来るとは約束していないのです。いや、仮令彼がそう誓ったとしても、まさしくI先生が発表していた調査結果で明らかなように、子どもの口約束は全く当てになりません。大舞台に立つ絶好のチャンスを棒に振った翌日、清々した気分^{せいせい}で少年に会いに行ったらすっぽかされたならば、あの純真な手品師は、一気に失意と後悔のどん底に突き落とされたことでしょう。

無論、この物語はあくまでフィクションなので、通常あり得ないと考えられることをいくら書いても構いません。例えば、本当に腕の立つマジシャンなら、ホログラフィーか何かの特殊なトリックで自分の分身を拵えて、それを子どもの待っている街角に遣ることだって可能かもしれません。それができれば、めでたく一件落着となります。

作り話やファンタジーを利用すること自体は悪くないにしろ、児童たちが学校で教わったことを実生活に直ちに活かすことがねらいであれば、もう少し感情移入がしやすいような現実味のある設定が望ましいのではないのでしょうか。

これも後で分かったことだが、この「手品師」の中味の不自然さと教育的価値の低さは以前から教育学の専門家に指摘されているので、本稿ではこの点をこれ以上追及しません。興味のある方には、宇佐見寛氏や松下良平氏の著書³などを参照されればと思います。

4. Tちゃんの知言

実は、「手品師」の訓話の内容よりも私を驚かせたのは授業の進め方でした。

上記の通り、I先生は時々児童たちに物語の感想を述べさせていました。この5年生たちは、そうした問い掛けにどう返答したら喜ばれるかを弁えていると見えて、ほとんどが話の流れに同調し、手品遣いの決意を讀っていました。ところがその中で、不協和な声が突然上がりました。教室の最後列に座っていたノッポのTちゃんが、「手品師が少年を劇場に連れて行けばいいと思います」と堂々と発言したのです。

「いいね。この子は考えたな。面白くなってきたぞ」と私は内心拍手を送りました。

けれどもI先生は、「いや、少年は切符を買っていないから劇場に入れないでしょう」と子供騙しの言い訳を返して、いわゆる「KYな」少女の考えを撥ねつけました。担任のこの「正論」を受けて、Tちゃんは、「そうですね」と納得してしまいました。2人のやり取りを傍聴していた私はというと、唇を噛みしめて、「違う！ 違う！」という心の叫びを必死に抑えていました。

それ以降、授業は最後まで円滑に進行しました。

子どもたちが帰宅の準備をしている間に、私は学童机に置いたままになっていた「道徳のつづり」を覗き込みました。読んでみると、「約束はきちんと守らなければいけない事が分かりました。男の子を喜ばせるために、夢をあきらめてまで約束を守るのはすごいと思いました」(Cちゃん)、「約束は、きちんと守った方がいいと、この学習で思いました。約束を守れば、自分も、気分がいいと思[う]し、相手も気分がいいと思[いま]した」(Yくん)、「どんなに大切なこと

があっても、約束したことは必ず守るということが大切だと思いました」(Iちゃん)、「ぼくは、何どもやくそくをやぶったことがある [。] でも手品をする人は、男の子 [と] のやくそくをやぶらなかつた。ぼくもやくそくをやぶら [な] いようにしたいと思う。!!」(Kくん)、「どんな約束をしても、絶対に守るのが大切だと思いました」(Sくん)、「約束っていうものは、決してやぶってはいけないものだと思います。私も約束をやぶったことはあるけれど、そのやぶられた人の気持ちになってみると、とてもその人は悲しむと思います。なので、なるべく『約束をやぶる』ということとはしないように心がけたいと思います」(Aちゃん)、等々と異口同音のコメントが綴られていました (図1参照)。例のTちゃんですえ、「夢よりも約束のほうが大きくて大切なんだなと思いました。次の大チャンスならこの先いくらでもあるから手品師は男の子を選んだと思います」、とおとなしく書き込んでいました。

要するに、本来個人によって多様であるはずの「手品師」の話の受け止め方はこの授業を通して唯一無二の模範解答に収斂しており、「道德のつづり」はその過程が完遂されたことを点検するべく、いわば思想統制の装置として機能しているのです。

上掲の児童たちの言葉から判断すると、I先生の指導はかなり有効だったと言えます。尤もここで問うべきは、一教諭の技量ではなく、こうした道德教育が本当に有意義かどうか、です。

5. 約束の絶対性

「当事者の間で取り決めること」と国語辞典で定義されている「約束」は、そもそも「決して破ってはいけない」ものなのか。思想家でなくとも、ちょっと頭を働かせれば誰も「そうとは限らない」という結論に至ります。答えが個別の事情に左右されるからです。

例えば、10歳前後の兄弟がお昼を食べている場面を思い描きましょう。「かけたら、お塩ちょうだい」と弟にお願いされ、兄が「はいよ」と言いました。しかしその直後、

- 一 ゲームの話題に会話が弾み、2人ともお塩のことをすっかり忘れてしまいました。この場合、結果的にお塩を弟に渡さなかつた、つまり、約束を破ってしまった兄を「悪徳」と非難し得るのでしょうか。
- 二 やはりゲームのことで激しい口論となり、兄が、感情を抑えきれずに、お塩の小瓶を弟の身体目掛けて投げつけました。この場合、結果的にお塩を弟に(乱暴に)渡した、つまり、約束を守った兄を称賛できますか。
- 三 極度の高血圧のため、弟が塩分摂取を控えなければならないということを思い出した兄がお塩を渡すのを拒否しました。この場合、結果的に約束を破った兄を責めるのは妥当でしょうか。

これらのケースを思い浮かべると、「約束は絶対に守るべきだ」とは一概に断言できません。少なくとも、議論の余地は残ります。I先生の道德授業に欠けているのはまさにこの議論の余地です。

6. 躰か哲学か

理論上、「約束はなるべく守った方が善い」といった一般説はすんなり受け入れられます。し

かし実際においては、約束にも大小軽重の様々な種類が存在しており、約束と約束のぶつかり合いが生じたり、約束を破った方がいいという逆説的事態が発生したりします。従って、何をどう守るべきかは最終的にケースバイケースで決する外ないのです。私には、このようなことを小学校5年生が理解できないとは思えません。

然るに、土曜参観の日に見せていただいた授業は、こうした決まった正解のない問題を児童たちに提示し、十分な検討と話し合いにより個々が自分の見解を構築していくことを促すものではありませんでした。管見によると、あれは人の言動の善悪適否を吟味させるれっきとした道德教育というより、「こうしなさい」、「それはよしなさい」のような絶対的命に帰着する「躰」の域を超えない活動です。

言うまでもなく、私は躰が不要などと述べたいわけではありません。ただ、子どもの躰を学校に任せていいのかという根本的命題はさておき、単なる躰のために貴重な授業時間を割くのは惜しいと思います。

畢竟するに、学校における道德教育を考えるにあたって、我々は二つの相反する基本方針の間で選択を迫られています。一つ目は、子どもに既成の共同体規範を遵守させることを狙った、いわば「道德=躰」という捉え方に立脚したものであり、今一つは、むしろ道德を哲学の領域内に位置づけて、既存の価値観を疑うことを奨励する方向です。極論するなら、前者が、決まりをよく守る、権力に従順な国民の量産を志向するのに対して、後者は、批判精神旺盛な社会の成員の育成を意図すると言えなくありません。道德教育の動向一つで全てが決まるのではないにせよ、日本の民主主義の質はこれらの道の何れをとるかに懸かっているのです、それなりに重大な決断です。

7. 改訂版「手品師」

先生の授業は、正しい教授法を心得ていない未熟な教員による実践例でないからこそ、私にとって衝撃的でした。先述の如く、「手品師」の短編は、文部行政のお墨付きを得た、全国の小学校で多年用いられてきた日本道德教育の最も典型的な教材の一つだが、物語の結末を書き換えない限り、微調整はある程度可能とは言え、期待されているものとは全く異なる扱い方がなかなか思いつきにくいでしょう。

哲学的アプローチを採用した道德教育の文脈において「手品師」の話を取り上げたいのなら、主人公が大劇場の誘いの電話を切ったところでストーリーを終らせればよいのです。そこで、児童たちに「さあ、あなたならどうする？」と問いかけ、じっくり考えさせます。そして、各々が創案した物語の続きを「道德のつづり」にまとめさせ、作文の読み合いを通じてアイデアの共有を図ります。途中でディベートを行ってもよし。注意点は、子どもの自由な発想を最大限尊重するよう、誘導尋問をしないことと、辿り着くべき到達点を予め規定しないこと、です。

因に、「部員」が毎回「あっちも大事だけど、こっちも大事」というジレンマに直面する、この4月に放送開始したNHKの道德番組「ココロ部」(Eテレ)は、「番組の最後は、結論が出ないまま終わります。決まった正解はありません。自分ならどうするか?学校や家で話し合いながら、ぜひ考えてみてください。[...]そして番組ホームページに、あなたの考えをぜひ送ってください」とHPで紹介されています⁴。自律した思考力と豊かな想像力などを養うこれと同様の着想に基づいた授業を私は歓迎します。されど、従来の道德教育は、均一思想を強要し、民主

社会の維持と一層の発展を脅かす思考停止を招きかねません。強化するどころか、有害なものとして即時廃止すべきだと私は主張したいのです。

8. 偽善者を作る教育

道徳的ドグマを押しつけようとする風潮は、「道徳の時間」の枠を超えて、他教科にも浸透しています。就中、国語科ではその傾向が特に強く、国語教科書などは実に「善いお話」満載です。手許に残っている、5年生の娘が使っていた光村図書の一冊から一例だけ挙げましょう。その本に、「わらぐつの中の神様」と題されたちょっと感動的な短編が掲載されている⁵が、それを踏まえて次のページにおいて、「『わらぐつの中の神様』を初めて読んだとき、どんな読後感をもっただろうか。ノートに書き留めておこう」(209頁)、という課題が児童たちに与えられています。さらに後段に、笑顔の男女2人の子どもの絵が並んでおり、それぞれの頭の上の吹き出しにはこう記してあります。「心が温かくなる感じがした」(女の子)、「大工さんが、かっこういいと思った」(男の子)。きっと、小学生たちが書きやすいように例文を示したのだと推測します。ただ、こうしたポジティブな感想文を目にしたら、仮に「つまらない話だった」と胸中思っても、そのような真情を打ち明けることはほぼ無理になってしまいます。(「空気が読めない」Tちゃんにはできるかもしれないが)。否定的な気持ちの表出を抑制するこうした教育は健全ではありません。何故なら、その結果子どもは、自分の心に嘘をつくことが習慣となり、人格が歪む恐れがあるからです。それに、児童に偽善を強いるのは、「誠実に生きよう」と諭すあの「手品師」の訓話と甚だしく矛盾していませんか。

こうして、児童・生徒たちはありもしないバラ色の桃源郷で善人ぶれと絶え間ない圧力をかけられています。ネガティビティを徹底排除したこの超肯定的な世界観を非人間的で薄気味悪いと感じるのは私だけでしょうか。ここまでしないと日本の少国民は必ず不良化すると言うのでしょうか。

目下計画が進められている「特別教科 道徳」の新設によって社会が本当に善くなるのか、それとも一段と息苦しくなってしまうのか。改めて熟慮を要する問題だと私は思います。

執筆後記

以上の小論をものしたのは、2015年の初春です。冬が到来した今、あの授業の光景がもはや記憶の彼方へ消えつつある感があります。

実はその間、大学で担当した前期ゼミを通じて学生と共に学校の道徳教育について多角的に考えてみました。関係文献や史料の検討の外、豊島区立池袋第3小学校や立教小学校の実践を見させて頂きました。6月には、東京学芸大学で開催された日本道徳教育学会の研究大会にも参加しました。また、教育学科の河野哲也教授のご協力を得て合同ゼミを実施し、その中でやはり「手品師」を教材として大学生に議論をさせました。残念ながら本稿では、斯かる活動の詳細に言及する紙幅はないけれども、それらを通して自分なりに見方を深めることができたと思います。

結局のところ、私の結論は変わっていません。つまり、学校の道徳教育には、下手をすれば民主社会の根本を揺るがしかねない危険が潜在している、ということです。

去る9月30日に、文科省が2018年度から小・中学校で用いられる「特別の教科 道徳」の教科書の検定基準を告示した。朝日新聞は10月1日付けでそれを次のように報道しています。「新しい検定基準では、子どもが自分の考えを持って議論することや、主体的な学習がしやすい内容にするよう求めている。子ども同士が話し合ったり、発表したりといった『言語活動』や、いじめの加害者や被害者を演じる寸劇などの『体験学習』などが示されている。文部科学省によると、教員からの一方通行的な授業にならない教材であることを条件にしたのが特徴。教員の価値観の押しつけを防ぐためだという⁶。」なるほど、これには誰もが胸を撫で下ろすことでしょう。ただ、現行の「道徳の時間」においても、児童生徒が「自分の考えを基に、書いたり話し合ったりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるよう工夫すること⁷」が要請されているので、方針が大きく変更したわけではありません。そうすると、「躰」を指向した道徳教育が今後も行われる可能性が残ります。

さて、世の中に悪徳が横行しています。一般市民を狙ったテロ、結婚式や病院の「誤爆」、自動車メーカーの排ガス不正、建設会社のデータ改竄、電機メーカーの不正会計など、道徳と関連する事件が連日ニュースを賑わせています。そのような悪行を働く大人たちが子どもの時分に家庭や学校で受けた徳育が行き届いていなかったのか、それとも逆に行き過ぎていたのか私には分かりません。

とにかく、「道徳教育」は21世紀の人間社会にとっても緊要課題の一つだと言えます。上述したように、私もなるべく継続してそれを考究していきたいと思います。（お約束はできませんが）。

註

- 1 「道徳に係る教育課程の改善等について」2014年10月21日。
- 2 『みんなのどうとく5年』（埼玉県版）永田繁雄監修，学研，16番，68～71頁（文＝江橋照雄「手品師」による，絵＝宇野亜喜良）。
- 3 『「道徳」授業に何が出来るか』宇佐見寛，教育新書85，明治図書，1989年。『道徳教育はホントに道徳的か？「生きづらさ」の背景を探る』松下良平，日本図書センター，2011年。
- 4 <http://www.nhk.or.jp/doutoku/kokorobu/origin/about.html>参照。
- 5 杉みき子作，黒井健絵，『国語5 銀河』，190～208頁。
- 6 <http://www.asahi.com/articles/ASH9Z5D51H9ZUTIL026.html>参照。
- 7 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/dou.htm参照。

手品師

名前

☆自分をふり返ろう☆

☆今日の学習で大切なと感じたことを書きましよう。

約束はきちんと守らなければいけない事が分かりました。男の子を喜ばせるために夢をあきらめずまで約束を守るのはいすごいと思えました。

ふ	り	返	り	
エ	ウ	イ	ア	
自分のことも考えることができましたか。	自分の考えを発表できましたか。	友だちの意見をよく聞くことができましたか。	主人公の気持ちになって、考えることができましたか。	◎ ○ △ ▽
◎	○	◎	○	◎ ○ △ ▽

手品師

名前

☆自分をふり返ろう☆

☆今日の学習で大切なと感じたことを書きましよう。

みんなに大切なことがあるも約束したことは必ず守るという事が大切だと思えました。

ふ	り	返	り	
エ	ウ	イ	ア	
自分のことも考えることができましたか。	自分の考えを発表できましたか。	友だちの意見をよく聞くことができましたか。	主人公の気持ちになって、考えることができましたか。	◎ ○ △ ▽
○	△	◎	○	◎ ○ △ ▽

図1 「道徳つづり」への書き込みの例（生徒の指名は消してあります）